

【2026 年度/教養科目領域/学術科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
憲法概論	160401	選択	2	1.2	前期	
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー		
桑原 修	B303	o.kuwa		木曜日 13:00~15:00		
授業の目的・概要	本講義では日本国憲法を中心に憲法の基本原理や構造について学び、憲法の基本的な役割と現代社会における意義について理解することを目的とする。憲法が社会や政治、日常生活とどのように関わっているかを学び、法の役割や人権の重要性を主体的に考える力を養うことを目標とする。					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク	
学習上の助言	日々の生活の中で法的思考を習慣付けることによって法的感覚を身に付けることができる。これにより実生活において法令に対する理解と法令遵守の大切さを実感することができるので、ニュースや社会問題に触れた際は、それが憲法上のどの原理や人権と関係するのかを意識するよう努めること。					
教科書	特に指定なし					
参考書	特に指定なし					
外部教材	特に指定なし					
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針			
①	法的思考で考える習慣を取り入れ実践することができる。		HSU (1)、(2)、(3)、(5)			
②	法令を遵守し模範的な行動を実践することができる。		HSU (1)、(2)、(5)			
③	人権を尊重し他者を思いやる人間性を身に付けることができる。		HSU (1)、(2)、(5)、(6)			
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション(授業の進め方、評価方法・学習方法の説明)：「憲法とは何か(憲法の意義と役割、最高法規)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
2	「日本国憲法の成立過程(制定過程の特徴)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
3	「天皇制(明治憲法から日本国憲法への転換、天皇の位置づけ)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
4	「平和主義(憲法9条の構造、自衛隊と安全保障、憲法改正)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
5	「人権(基本的人権の特徴、基本的人権の尊重、公共の福祉)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
6	「精神的自由権(表現の自由、学問の自由、信教の自由)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
7	「経済的自由権(職業選択の自由、財産権)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
8	「人身の自由(逮捕・拘禁、適正手続、令状主義)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
9	「社会権(生存権、教育を受ける権利、労働基本権)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		
10	「参政権(選挙権・被選挙権)」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4		

【2026 年度/教養科目領域/学術科目群】

11	「国会（国会の権限、立法過程）」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4
12	「内閣（内閣の構造と権限、行政権）」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4
13	「裁判所（裁判所の役割、最高裁判所の違憲審査）」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4
14	「財政・地方自治（財政とは、予算の仕組み、地方自治）」について学ぶ。小テストを行い学びの深化を図る。	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4
15	講義及び小テストの振り返り（総括）	講義	日常生活において法的思考を取り入れる。小テストと講義の内容を復習する。	4
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照。			

達成度評価

総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	20	0	0	0	0
総合力指標	知識・技術力	20	10	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	20	5	0	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	20	0	0	0	0	20
	問題を発見・解決する力	20	5	0	0	0	25

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	✓	コメントを付して個別に返却する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①	✓	コメントを付して個別に返却する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
	⑥		

備考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	なし
実践的授業の内容	講義を通じて、憲法の理論だけでなく実践的な応用力を身に付けていく。これにより、法律や社会問題に対する理解が深まり批判的思考を養うことが期待できる。聴覚教材を使用し具体的事例を紹介する。
そ の 他	憲法概論を学ぶことによって法の仕組みや学生として最低限必要な知識を習得することが出来る。特に憲法と他の法律との関係性を含めた知識の習得は、今後の社会生活において大きな指針となる。そのため日常生活のなかで法的思考を取り入れることを推奨する。 本講義では、やむを得ずシラバスの変更が生じる場合は、授業または Teams 等で周知する。対面授業ではあるが、連絡や資料配布等に Teams を使用するので、各自必ず確認すること。